1. 外国人患者への対応(修正案)

○ 医療法施行規則(昭和33年厚生省令第50号)【病院の例】

		詳細	記載上の留意事項
19	対応することができる外国語の種類 外国人の患者の受入れ体制		別表1の2)

○ 医療法施行規則別表第一の規定に基づく厚生労働大臣が定める事項 (平成19年厚生労働省告示第53号)【病院の例】

	厚生労働省令で定めるもの		厚生労働大臣が定めるもの	記載上の留意事項
2)	外国人の患者の受入れ体制	1	診療時に対応することができる外国語の種類	職員が外国語で対応できる、通訳者を配置している、電話通訳サービスを契約している等により、診療の一連の流れにおける主要な場面を含め、外国語での対応が可能な言語を記載する。ただし、定期的に(週1日以上)対応が可能な日があるものに限る。 また、対応可能な時間帯等の特記事項があれば記載する。多言語音声翻訳システム(言語を入力すると自動で他の言語に翻訳して音声出力するアプリ等)の機械による通訳は含まない。
		2	多言語音声翻訳機器システムの利用の有無	多言語音声翻訳機器システムを利用した対応が、部門を問わず、常時可能かどうか。
		3	外国人の患者の受入れに関するサポート体制の整備総合的な対応の実施有無	外国人の患者の受入れに伴い発生する特有の業務(通訳の手配、医療費の支払いに関する調整、他院への紹介、海外旅行保険会社とのやりとり等)を総合的に担当する職員の配置又は部署の設置により、外国人の患者の受入れに関するサポート体制が整備されているかどうか。職員の専任・兼任は問わない。

報告義務の範囲			
病院	診療所	歯科診療所	助産所
○	○	○	○
○	○	○	○
○	×	×	×